

れた。

- (1) Metal tubes ad hoc 会議
- (2) PLACO/TAG 設置の動き
- (3) TC 17 議長問題
2. 今後の事務局定例報告の程度が確認された。
3. 下記案件が承認された。
 - (1) 専門諮問部会部会長・青木朗氏の運営委員会委員への委嘱
 - (2) TC 17 総会準備委員会の設置
4. その他下記項目について意見交換が行われた
 - (1) TC 17/ SC 1 事務局の運営
 - (2) TC 17 事務局の増強

鉄鋼基礎共同研究会

高炉内反応部会

第 11 回部会 開催日：3月13日，14日。出席者：大森部会長，ほか 41 名。

1. 蔵王バイツにて，委員外参加者も含め，今後の本部会活動方針について討論が行われた。討論は以下の 5 WG にわかれ行われた。

- 1) 高炉数学モデル
- 2) 装入物のうごき
- 3) レースウェイ
- 4) スラッグ・メタル反応
- 5) 将来の製鉄

2. 今後 2 年間の研究成果をまとめ英文で出版する予定である。

高温変形部会

第 14 回部会 開催日：3月25日。出席者：田村部会長，ほか 26 名。

1. 講演

- (1) SUS 304 の高温多軸応力下の塑性変形
- (2) Ni 及び Ni 基耐熱合金の高温高速変形
- (3) 動的再結晶組織の熱的安定性
- (4) 低炭素クロム系ステンレス鋼の高温変形能

2. 協議事項

- (1) 55年度は年 5 回部会を開催する。
- (2) シンポジウムを 1 回開催する。

3. 高温変形シンポジウム

翌 3 月 26 日に新丸ビル地下大会議室で当部会主催のシ

ンポジウムが開催された。8 名の講師により「制御圧延技術の基礎とその展開」に関する最近技術の講演が行われた。200 名を越す聴講者が参加して，盛況のうちに終了した。

第 2 回高温変形シンポジウム 開催日：3月26日。出席者：田村部会長，ほか 250 名。

開催場所：新丸ビル地下大会議室。

1. シンポジウムは「制御圧延技術の基礎とその展開」をテーマに，その理論的根拠と技術の応用・展開について基礎から将来の展望まで，7 題目の講演が行われた。会は 250 名を越す聴講者が集まり，講演に対して活発な討論が行われ，盛会裡に終了した。

<講演題目>

- (1) 挨拶
- (2) 高温変形(制御圧延)の基礎
- (3) 制御圧延における細粒化とその役割
- (4) 制御圧延における相変態挙動とその役割
- (5) 制御圧延における組織変化と変形抵抗
- (6) 二相域圧延による強靱性の向上と異方性
- (7) 中・高炭素鋼における制御圧延・制御冷却とその効果
- (8) 制御圧延の将来の展望

鉄鋼材料の摩耗部会

第 4 回部会 開催日：3月11日。出席者：木村部会長，ほか 21 名。

1. 場所：日本鉄鋼協会会議室

2. 議題

(1) 従来の研究についての勉強会として，次の発表とそれに関する討論が行われた。

「液体窒素中におけるオーステナイト鋼の摩耗」

(東北大，須藤)

「金属材料のすべり摩耗特性と摩擦面温度」

(大阪府立大，川本)

「熱間仕上圧延におけるロールの摩耗およびサーマルクラウンの解析」

(久保田，渡辺・北村)

「圧延ロールの摩耗に関する問題点」

(住金，平川・外山)

(2) 本部会においてとり上げるべき研究課題について討論が行われた。

正 誤 表

「鉄と鋼」66 (1980) 5, pp. 478~487 「環流式連続脱ガスに関するモデル実験とその解析」

上田 卓弥，古山 貞夫，中川 龍一

ページ	行	誤	正
480	右 2	$\{t - (h + nc)\} n_e - a \{t - (h + nc)\}$	$\times \{t - (h + nc)\} n_e - a \{n - (h + nc)\}$
480	右 9	$E(t) \times \mathcal{L}^{-1}\{W_2(s)\} =$	$E(t) = \mathcal{L}^{-1}\{W_2(s)\} =$
480	右 9	$\frac{v}{v_2} \delta(t - \theta_B) d \sum_{n=0}^{\infty} \frac{b^n}{n!}$	$\frac{v}{v_2} \delta(t - \theta_B) + d \sum_{n=0}^{\infty} \frac{b^n}{n!}$
480	右 10	$\{t - (H + nC)\} n_e - A \{t - (H + nC)\}$	$\times \{t - (H + nC)\} n_e - A \{t - (H + nC)\}$